

甲斐国分寺跡(笛吹市)

正面手前の錆びついた標柱に「史跡 甲斐国分寺跡」と記されている/正面前方のプレハブは「甲斐国分寺跡仮設ガイダンス施設」



左手を見ると説明板が立っており、正面前方一帯が甲斐国分寺跡のようだ





文化庁 国指定史跡

国指定史跡 甲斐国分寺跡

甲斐国分寺跡は、これまで金堂跡・講堂跡・塔跡・回廊跡・中門跡などが発掘調査されています。

●金堂跡

金堂跡の基壇は、掘込地業がなされ、版築されました。基壇の大きさは、東西四十一・四十二メートル、南北二十二・六メートルでした。基壇化粧は自然石を使用した乱石積みです。礎石は検出できませんが、元の位置には無く、建物の規模はわかっています。正面階段の幅は十・八メートルあります。金堂の正面と背面には石敷があり、雨落ち溝などの施設はありませんでした。石敷が雨落ち溝をかかっていたと考えられます。



金堂地覆石・正面石敷検出状況



金堂基壇・背面石敷検出状況

●講堂跡

講堂の建物の大きさは、東西二十六・四メートル、南北十三・六メートルです。基壇の大きさは、東西三十二・四メートル、南北十九・六メートルです。講堂跡の基壇も掘込地業がなされ、版築されていました。講堂正面には階段が三つありました。創建当初は、中央の階段幅は四・二メートル、脇階段三・六メートルあり、四段あったと思われる。講堂正面には、金堂の背面から続く石敷が検出されました。講堂跡でも雨落ち溝は無く、石敷がその機能をかかっていたと考えられます。



講堂基壇・正面階段・石敷検出状況



講堂正面東階階段検出状況

●回廊跡

回廊は、中門から始まり金堂側面中央部に接続しています。東西回廊の幅は七・八メートル、南北回廊は七・四メートルあります。回廊跡も掘込地業がなされ、版築されています。回廊の基壇化粧も自然石を使用しましたが、元の位置には無く、建物の規模はわかっています。礎石が検出されませんでした。礎石などが発掘調査で見つからなかったため、単廊が複廊かはわかりません。

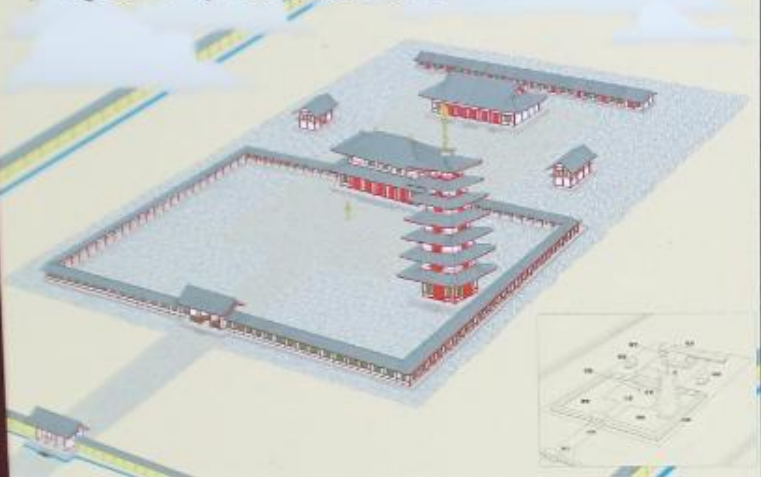


回廊跡北西隅空撮写真



回廊西側基壇化粧石列検出状況

甲斐国分寺復元想定図



平成二十五年 三月

笛吹市教育委員会



文化財登録シンボルマーク

国指定史跡

甲斐国分寺跡

甲斐国分寺跡は南北三三〇メートル、東西二二五メートルの築地塀と溝に囲まれた範囲に広がっていました。寺の正面は南側で、正門である南門から入ると中門と回廊に囲まれた宗教的な空間があります。回廊奥の建物は国分寺の中心である金堂で、本尊の釈迦如来を安置していました。回廊内の東端には国分寺のシンボルと言える塔が建てられました。金堂の北側には經典の講読をする講堂、さらに僧侶たちの宿舎である僧房が続き、金堂・講堂の両脇には鐘楼・経楼があったと推定されています。塔及び講堂跡等に礎石が現存し、当時の壮大な伽藍をしのぶことができます。

寺伝によると古代の国分寺は建長七年（一二五五）に焼失し戦国時代に武田信玄によって再建されました。現在は史跡保存のため約二〇〇メートル南に移転しています。

平成二十一年三月

笛吹市教育委員会

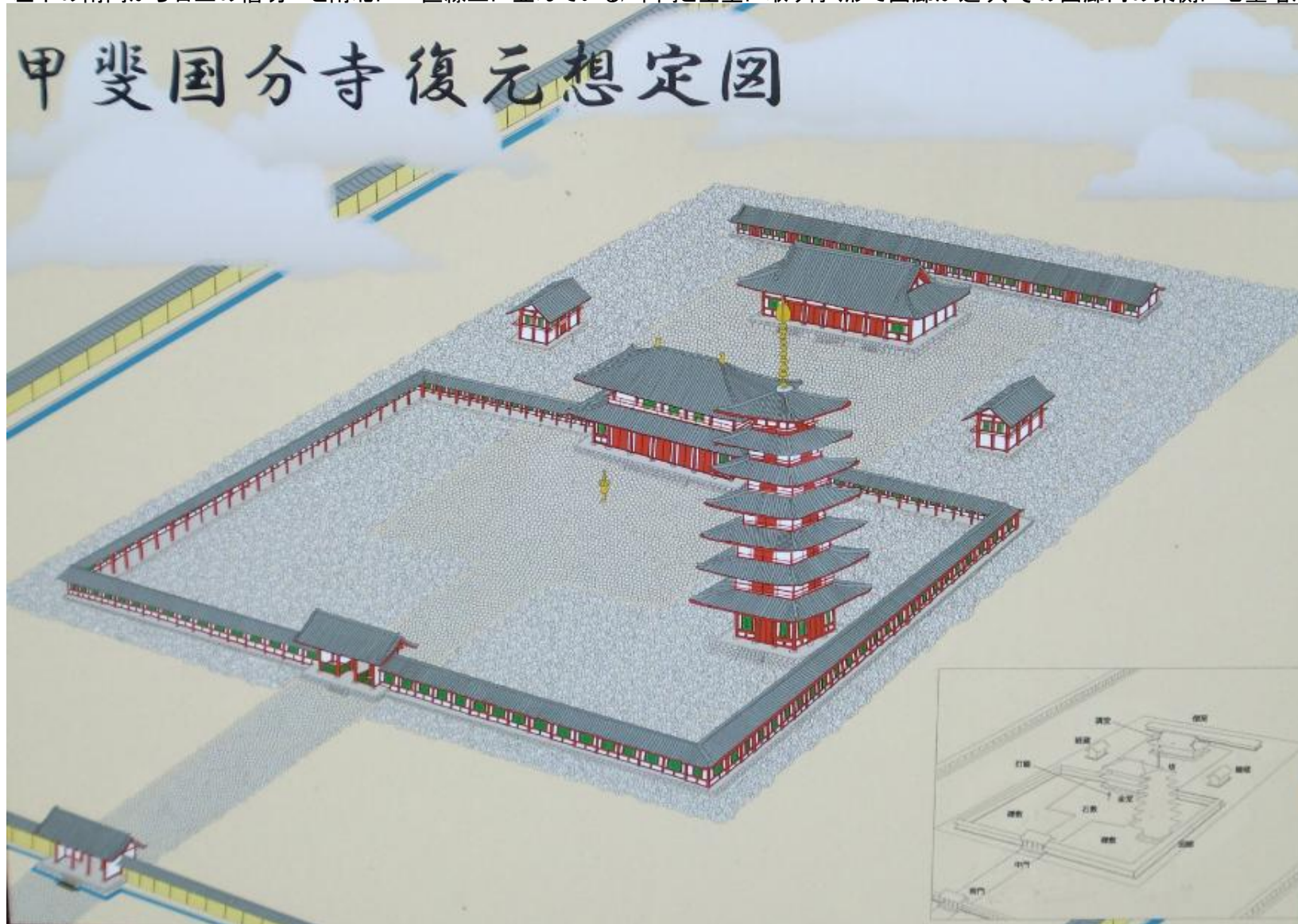


甲斐国分寺跡出土鬼面紋鬼瓦



甲斐国分寺跡復元図

左下の南門から右上の僧坊へと南北に一直線上に並んでいる/中門と金堂に取り付く形で回廊が巡り、その回廊内の東側に七重塔が建つ



上記の説明板の位置から少し進んだところ/正面が塔跡、左手が中門跡、南門跡と南方向であり、右手が金堂跡、講堂跡、僧房跡と北方向となる



ここは塔跡/説明板が立ち、礎石が残っている/北東側から見たところ



説明板は劣化して、白っ茶けてしまっている

塔跡

「国分寺建立の詔」では国分と下七重塔を建て、「国の華」
とするように命じられていました。塔は釈迦の遺骨（舍利）

を祀る建物で、国分寺のシンボルと言えます。

甲斐国分寺の塔跡は、中門と金堂をつなぐ回廊内の東側に
ありました。正方形に配置された礎石が残され、発掘調査の
結果、一辺約一六・九メートルの基壇の上に建てられていたことが
わかりました。

中央にある大きな礎石は「心礎」と言い、塔の真ん中にま
っすく建てられた心柱を支えていたものです。心礎の上は心
柱を乗せていた部分が「柱座」という浮き彫りになっていま
す。心礎の中心部には舍利を納めた「舍利孔」という穴があ
ります。

平成二十一年三月

笛吹市教育委員会



甲斐国分寺跡伽藍復元図



上空から見た塔跡

点線が建物・基壇の範囲

塔跡を北西側から見たところ/標柱と石碑も立っている



「史跡 甲斐国分寺跡」と記された標柱が立ち、手前には石碑が立ってる



石碑/大正11年10月に国史跡に指定されたとある



塔の礎石が残っている/正面中央が心礎



この心礎には心柱が乗っていた柱座が浮き彫りになっており、その中心には舍利を納めた穴(舍利孔)がある



さて、これは南門跡と中門跡の中間地点より南側から北方向への軸線を見たところ/手前に「史跡 甲斐国分寺跡」と記された標柱(右手)と石碑(左手)が立っている



左手の石碑/聖武天皇勅建古道場とある



正面前方が金堂方向で、手前に中門跡の説明板と礎石が残されている



これが中門の参道西側の礎石の一つという



中門跡・回廊跡

甲斐国分寺跡の伽藍は、南から南門・中門・金堂・講堂が一直線上に並んでいます。南門は国分寺の正門にあたり、中門に向かってまっすぐに参道が延びていました。中門からは東西に回廊が延び、回廊はコの字形になって金堂の両脇につながります。中門・回廊・金堂に囲まれた場所は聖なる空間とも言え、その東端に塔が建てられました。

甲斐国分寺の中門跡は現在の参道の西脇に礎石が一つ残っています。発掘調査によりこの下に基壇という土をつき固めた壇があることがわかりましたが、規模はまだ不明です。

平成二十一年三月

笛吹市教育委員会



甲斐国分寺跡伽藍復元図



鬼面紋鬼瓦

回廊跡南側から出土しました。

正面前方の説明板が見えるところ辺りが金堂跡/手前の両サイドの石垣は後世の国分寺(現在はこの近くに移転している)のものらしい



右手(東方向)を見たところで前方に塔跡の標柱が見える



正面の説明板の辺りが金堂跡とされる/ここに見える礎石群は移転した後世の国分寺薬師堂のものらしい



金堂跡

金堂は国分寺の中心に位置する建物で、本尊の釈迦如来像が安置されていました。釈迦如来像は丈六と言つ高さ約二・四尺の坐像で、西脇には高さ三・三尺の文殊菩薩と普賢菩薩の像が立てられていました。

金堂跡は残念ながら現在の地表面では確認することはできませんが、発掘調査によって最近まで建っていた本堂・薬師堂の下に、基壇という土を固めた壇や建物の柱を支えていた礎石が残されていることがわかりました。基壇は南北が二二・六尺、東西約三六尺であると推定されています。

平成二十一年三月

笛吹市教育委員会



甲斐国分寺跡伽藍復元図



上空から見た金堂跡

点線が基壇の範囲

金堂跡を南西側から見たところ/手前の礎石は後世の薬師堂のもので、この右手の方に後世の本堂跡があり、薬師堂跡と本堂跡
一帯が金堂跡のようだ



金堂跡を南東側から見たところ/手前の礎石は後世の本堂のもので、この左手の方に後世の薬師堂跡がある



さて、これは金堂跡の辺りから北方向に講堂跡(説明板が立っている辺り)を見たところ



講堂跡

講堂は僧侶たちが仏教を学び修行する建物で、国分寺には二十人の僧を置くことが法で定められていました。

講堂跡はこれまで国分寺の聖地とされてきましたが、聖地の移転が進み礎石の並び方が良くわかるようになりました。

現状では自然石を用いた三十二個の礎石が確認できます。礎石の数は本来三十六個で、東西二六・四段、南北一三・七段の建物が復元できます。

礎石の大きさから古代寺院建築の壮大さがしのばれるのではないのでしょうか。

平成二十二年三月

笛吹市教育委員会



甲斐国分寺跡伽藍復元図



上空から見た講堂跡

-点線は建物・基礎の範囲

南東側から見た講堂跡の礎石



北東側から見た講堂跡の礎石



講堂跡から金堂跡方向を見たところ



さて、これは講堂跡から北方向を見たところで前方に説明板が立っている/この道を少し行くと甲斐国分尼寺跡がある



甲斐国分尼寺も甲斐国分寺と同様に南北の軸線上に主要伽藍が並んでいる



文化財庁シンボルマーク

国指定史跡

甲斐国分寺跡・国分尼寺跡

天平十三年（七四一）、聖武天皇は全国に国分寺と国分尼寺を建てるよう命じました。「国分寺建立の詔」です。疫病の流行や凶作などの災いから仏教の力で国家を護るために、奈良・平城京の東大寺の大仏を中心として、全国各地に国分寺・国分尼寺を建てるという壮大な構想でした。

当時「甲斐国」と呼ばれた山梨県では笛吹市一宮町国分に甲斐国分寺、同一宮町東原に甲斐国分尼寺が建てられました。当時の寺院は宗教的な施設と言うだけではなく、新しく中国大陸からもたらされた文化を学ぶセンターでもありました。また、国分寺の建設に伴って瓦作りや金工などの新しい技術もたらされました。

平成二十一年三月

笛吹市教育委員会



振り返って南方向を見たところ/おそらく現在の位置辺りが僧房跡で、正面に講堂跡、金堂跡、中門跡と続いている



参考ホームページ

<http://orange.zero.jp/kkubota.bird/kai.htm>

<http://fuefuki-syunkan.net/2009/kokubunji.html>

<http://mapbinder.com/Map/Japan/Yamanashi/Fuefuki/Kokubunji/Kokubunji.html>

<http://1st.geocities.jp/tekedadesu/kokubunzi.html>

<http://komatsu0513.heteml.jp/kai.html>

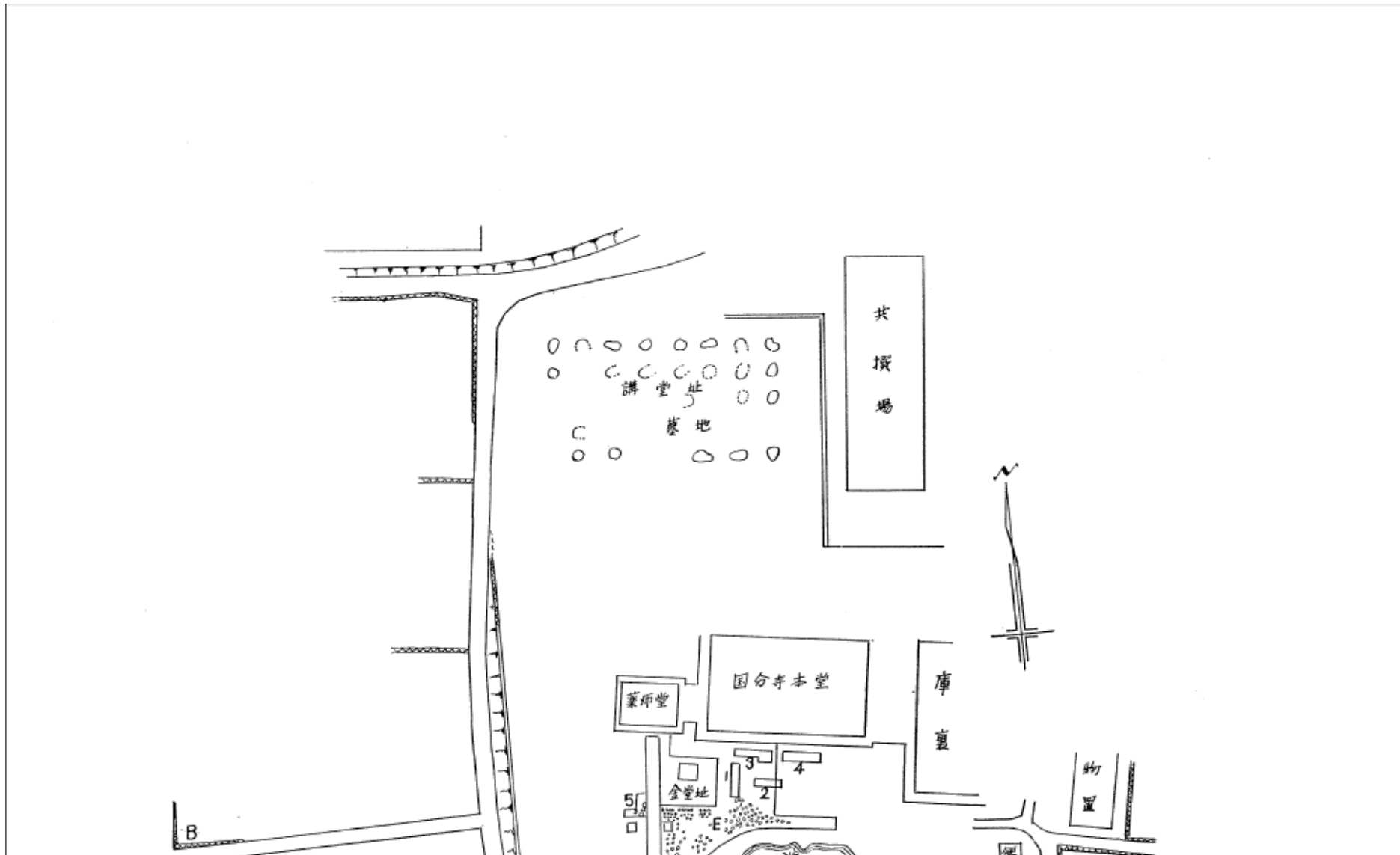
http://www.geocities.jp/blue_sky_00_77/p329.htm

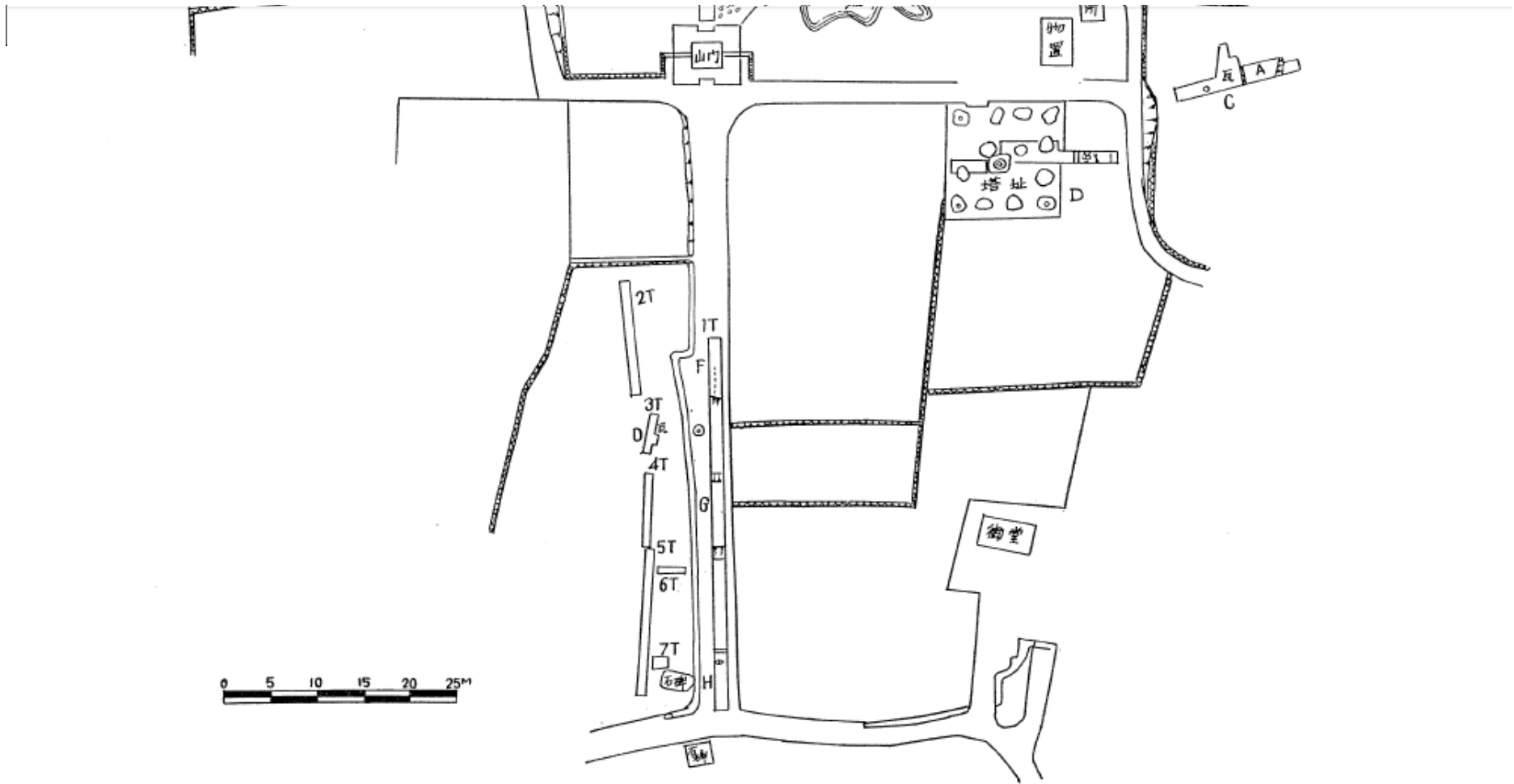
<http://shikado.cocolog-nifty.com/zakki/2009/08/post-28ea.html>



参考資料

発掘調査のために移転する前の後世の甲斐国分寺配置図/塔跡、墓地となっていた講堂跡、薬師堂・本堂の辺りに金堂跡の一部が見てとれる





第2図 甲斐国分寺全体図